

## 第5節 メディアを活用する場面

乳幼児の生活でメディアを活用する場面について、家の中で、親が家事で手をはなせないときや食事中は「テレビ番組」を、外出先では「スマートフォン」をみせていた。全体的に「スマートフォン」を使わせる場面が増加傾向にある。タブレット端末やスマートフォンなどで写真や動画をみせる割合は全年齢で高く、年齢があがるほど子どもの主体的な操作が増加していた。

### ●親が家事で手をはなせないときに使わせる主なメディアはテレビ・ビデオ。外出先での待ち時間にスマートフォンを使っている割合は2～3割

乳幼児は生活のどのような場面で、メディアをみたり使ったりしているのだろうか。メディアを所有する家庭において、経年での変化を示したのが表1-5-1である。

まず、自宅内での活用を想定した場面についてみてみよう。「親が家事などで手をはなせないとき」について、「テレビ番組（録画を含む）」が、2013年の72.2%から2017年は64.0%に減少しているものの、すべての場面において活用されている割合がもっとも高い。「ビデオ・DVD」も2013年の46.1%から35.8%に減少しているが、すべての場面において上述の「テレビ番組（録画を含む）」に次いで高い。

次に「家で食事をしている間」をみると、「テレビ番組（録画を含む）」が2013年の32.5%から2017年は30.9%に減少しているが、食事中に接するメディアとしてはもっとも割合が高い傾向は変わっていない。

自宅内での活用を想定した場面として「布団やベッドに入ってから寝るまでの間」についてもたずねている。2017年にもっとも高い比率で使われていたのが「スマートフォン」で8.2%、次いで「タブレット端末」で7.5%だった。いずれも2013年と比較すると増加しており、「親が家事などで手をはなせないとき」の比率より少なく、「家で食事をして

いる間」の比率より多い状態だった。

移動中や外出先ではどうか。「自動車、電車などで移動しているとき」については、「スマートフォン」が2013年の21.2%から2017年は21.6%に、「ビデオ・DVD」が17.3%から13.5%に、「タブレット端末」が10.9%から10.0%となっている。

「外出先での待ち時間」については、「スマートフォン」が2013年の30.5%から2017年は33.7%に、「タブレット端末」が2013年の13.4%から10.1%となっている。いずれの場面でも、モバイルメディアの活用比率が他メディアよりも高い傾向がみられる。経年変化については大きな変化がみられないが、これはメディア所有者における利用比率の値であり、利用者の絶対数でみた場合は、全体の所有率が増加した「スマートフォン」や「タブレット端末」の利用が増加していると推測される。

自宅内外に限定されない場面をみると、「子どもがさわぐとき」「子どもが使いたがる時」については「テレビ番組（録画を含む）」と「スマートフォン」が選択される比率が高い傾向は2013年と変わらない。ただし、「スマートフォン」の比率が「テレビ番組（録画を含む）」と同等かそれ以上となっている点が注目される。

さらに、今回調査で新たに追加した項目「子どもが約束を守ったとき（ごほうびとして）」も合わせてみると、子どもがみたい、使いたいと思うメディアは、テレビ番組と並んでスマートフォンやタブレット端末の存在が大

表1-5-1 メディアを使う場面（経年比較）

		2013	2017 (%)
親が家事などで手をはなせないとき	テレビ番組（録画を含む）	72.2	64.0
	ビデオ・DVD	46.1	35.8
	パソコン	3.9	3.7
	タブレット端末	16.8	23.9
	スマートフォン	7.7	15.2
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	5.0 9.2	3.3 7.8
家で食事をしている間	テレビ番組（録画を含む）	32.5	30.9
	ビデオ・DVD	8.1	6.6
	パソコン	0.3	0.7
	タブレット端末	1.4	3.6
	スマートフォン	0.7	2.3
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	0.1 0.4	0.2 0.4
布団やベッドに入ってから寝るまでの間	テレビ番組（録画を含む）	3.7	5.1
	ビデオ・DVD	2.1	1.9
	パソコン	0.2	0.7
	タブレット端末	3.8	7.5
	スマートフォン	5.0	8.2
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	0.1 1.0	0.3 1.4
自動車、電車などで移動しているとき	テレビ番組（録画を含む）	7.3	5.5
	ビデオ・DVD	17.3	13.5
	パソコン	0.0	0.5
	タブレット端末	10.9	10.0
	スマートフォン	21.2	21.6
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	0.3 6.0	0.1 4.0
外出先での待ち時間	テレビ番組（録画を含む）	1.0	0.9
	ビデオ・DVD	1.8	1.1
	パソコン	0.1	0.5
	タブレット端末	13.4	10.1
	スマートフォン	30.5	33.7
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	0.3 8.4	0.4 5.2
子どもがさわぐとき	テレビ番組（録画を含む）	26.9	27.5
	ビデオ・DVD	21.8	17.5
	パソコン	2.2	2.0
	タブレット端末	15.1	16.7
	スマートフォン	17.0	23.5
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	1.6 3.3	2.0 5.2
子どもが使いたがる時	テレビ番組（録画を含む）	32.3	26.1
	ビデオ・DVD	30.8	19.6
	パソコン	10.0	4.6
	タブレット端末	28.5	28.3
	スマートフォン	28.3	29.7
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	10.4 15.7	5.0 10.9
子どもが約束を守ったとき（ごほうびとして）	テレビ番組（録画を含む）	—	12.8
	ビデオ・DVD	—	10.4
	パソコン	—	2.4
	タブレット端末	—	13.8
	スマートフォン	—	12.4
	据え置き型ゲーム機 携帯型ゲーム機	— —	3.7 7.3

注1) 複数回答。

注2) 網かけは、2013年と2017年との差が5ポイント以上あるもの。

注3) 「子どもが約束を守ったとき（ごほうびとして）」は、2017年の新設項目。

注4) 2013年は無答不明を除く。

注5) そのメディアが家庭にある人のみ。

きくなっていることもわかる。スマートフォンやタブレット端末は親の身の回りにある場合が多いことや、タッチパネル方式で幼児にとっても操作しやすいことなどから、やはり親のそばにいることの多い乳幼児にとってますます身近な存在となっている様子がうかがえる。

●写真や動画をみせる割合は全年齢で高く、年齢があがるほど子どもの主体的な操作が増加

次に、インターネットへの接続などを通して様々なコンテンツが利用可能なメディアについて、母親はどのようなことをさせているかをみてみよう。図1-5-1は、携帯電話・スマートフォン、タブレット端末、パソコンで母親が子どもにさせることをたずねた結果である。なお、質問はこれらの機器が「家がない」「使わない」場合も含めた複数回答形式で行っている。多い順に「写真を見せる」（「よくある」「ときどきある」の合計で84.4%）、「あなたやお子さまが撮った動画を見せる」（同76.2%）、「YouTubeなどで検索やダウンロードした動画を見せる」（同52.3%）である。

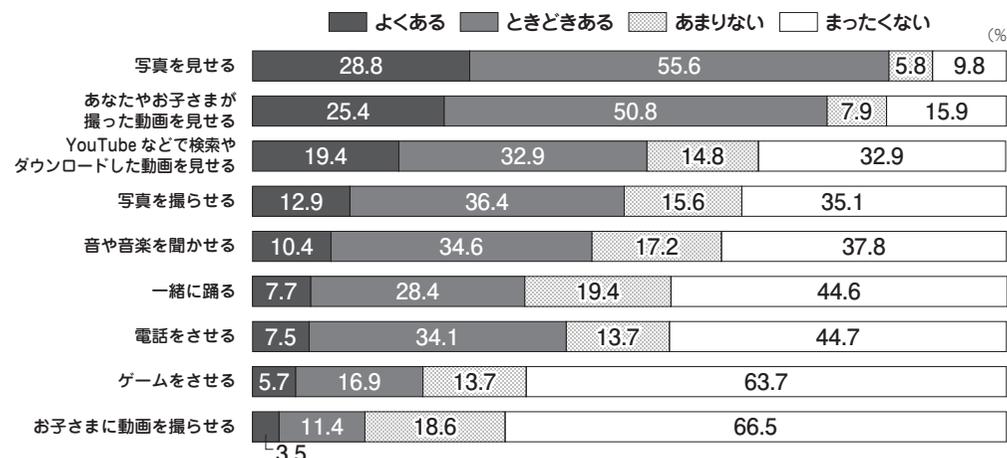
年齢別にみると（図1-5-2）、子どもの年齢があがるにつれて増加するのは「写真を見せる」（1歳25.4%、6歳64.3%）、「ゲームをさせる」（1歳6.5%、6歳41.2%）などであり、年齢があがるにつれて子ども自身が主体的に端末を操作する比率が増加している。とくに増加率が大きいのは3歳までの間である。第8節の「メディアを使い始めた時期」に後述しているが、スマートフォンとタブレット端末に代表される新しいメディアは前回調査時よりも使用開始年齢が早期化しており、使用開始時期と操作主体が変化する時期が重なっている。

●ビデオ通話は約3割強が使用。主な相手は家族や親族

「平成28年通信利用動向調査の結果」（総務省、2017年6月発表）によると、インターネットを利用している個人の割合は年々増加し、2016年には83.5%にのぼる。ソーシャルネットワークサービスの利用者も増加傾向にある（2014年47.4%→2016年51.0%）。表1-5-2は、こうしたサービスの一部であるビデオ通話機能について、子どもの通話対象を母親の年齢別にみた結果を示している。全体でみると「使っていない」が約3分の2を占める。母親の年齢が高いほど「使っていない」比率が高く、29歳以下と40歳以上とでは13.3ポイントの開きがある。子どもが使用している場合の相手は、「祖父母」や「親戚やいとこ」など、家族・親族が中心となっている。

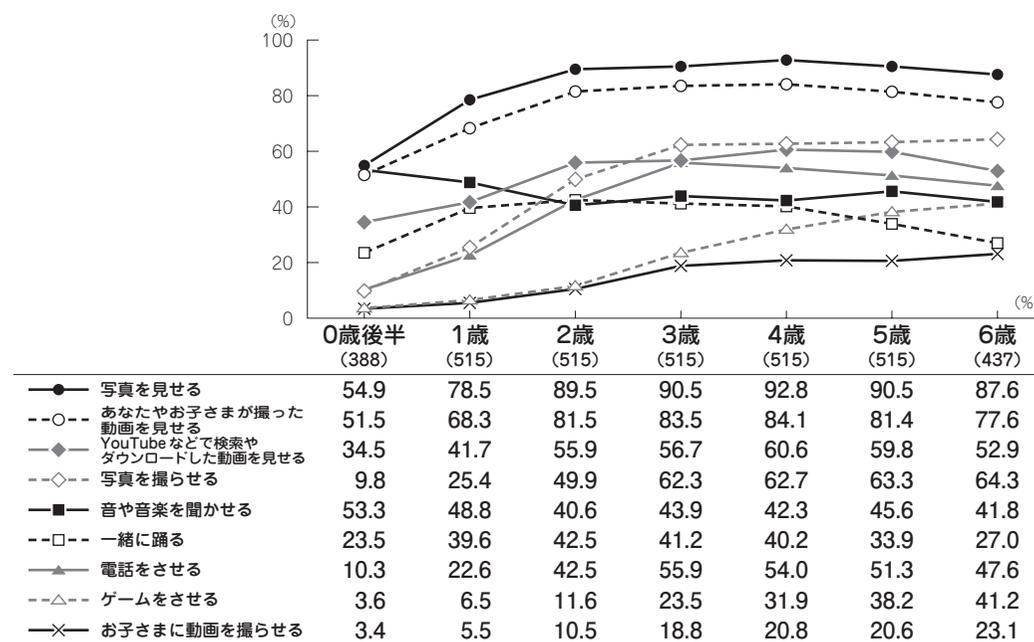
今後は、こうした新たな機能・サービスのあり方にどのように、どの程度影響してくるのかを慎重にみていく必要があるようだ。

図1-5-1 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末、パソコンで子どもにさせること（2017年）



注) その機器は「家がない」「使わない」場合も回答。

図1-5-2 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末、パソコンで子どもにさせること（子どもの年齢別、2017年）



注1) その機器は「家がない」「使わない」場合も回答。

注2) 「よくある」+「ときどきある」の合計値。

注3) ( )内はサンプル数。

表1-5-2 FacetimeやSkype、LINE、ビデオコールなどの、子どものビデオ通話対象（全体・母親の年齢別、2017年）

	全体 (3400)	29歳以下 (681)	30~34歳 (288)	35~39歳 (936)	40歳以上 (495)
祖父母	28.9	33.9	30.0	28.7	19.6
親戚やいとこ	9.3	11.0	8.3	10.9	6.7
園の友達	3.4	2.8	3.0	4.2	4.0
単身赴任あるいは出張中の親	3.1	3.4	2.7	3.6	3.0
その他	1.1	1.3	1.2	1.1	0.6
オンライン英会話などの学習相手	0.4	0.7	0.3	0.4	0.2
使っていない	65.5	60.6	64.4	66.1	73.9

注) ( )内はサンプル数。